

令和6年度 豊後高田市学力定着状況調査結果

小学校

令和6年 12月12日実施

学年	教科	目標値	本市の正答率	目標値との差
3年	国語	55.7	67.5	11.8
	算数	60.5	76.4	15.9
4年	国語	56.8	62.6	5.8
	算数	61.1	71.5	10.4
	理科	53.8	68.0	14.2
5年	国語	58.3	68.7	10.4
	算数	57.2	71.9	14.7
	理科	54.5	67.9	13.4
6年	国語	56.0	64.6	8.6
	算数	56.2	68.0	11.8
	理科	61.5	68.2	6.7

目標値・全国平均との差 +3ポイント以上…■ —3ポイント以下は…■

■良好な項目

- 全ての学年・教科において目標値を上回っている
- 小3, 小5においては全教科で全国平均を上回っている。
- 国語において、小3, 小5, 小6の応用・活用問題において全国平均を上回っている。
- 算数において小3・小5でほとんどの領域・単元で全国平均を上回っている。また無解答率も低い。
- 理科において、小4・小5において基礎・応用とも全国平均を上回っている。また小4～小6ともに記述式の問題において平均を上回っている。

■課題がある項目

- 国語において、小4以上の「漢字の書き」において全国平均を下回る問題が多く、無解答率も高くなっている。
- 算数では、小6の全ての領域において全国平均を下回っており、特に立体図形の単元において正答率が低くなっている。
- 理科では、振り子の運動(小6)や電気の通り道(小4)の単元において正答率が低くなっている。

今後の対策

- その学年で付けるべき力を確実に身に付けさせ、知識・技能を定着させるための取組
 - ・単元ごとの定着状況の把握とパターン分析から見えた基礎・基本の定着のための取組（単元テストのやり直しの徹底、小テストの実施、個に応じた課題）
- わかる授業に向けた授業改善
 - ・「めあて・課題、まとめ・振り返り」を位置付けた「わかった！できた！」を実感する授業づくり
 - ・協調学習における主体的・対話的で深い学びの授業実践の推進による活用力・表現力の育成
 - ・学校規模に応じた授業形態(アウトプット型授業、個別指導、補習指導 等)
- 効果的な家庭学習の推進